



きみが世界を変えるなら



石井光太／著
ポプラ社(2016年)

いじめ、不公平、貧しさ…イヤなこと、困ることがたくさんある。でも子どもだから受け入れるしかない。…本当に？小学生ができることもある。考えて動きだせば、世界は必ず良くなっていく！



青いスタートライン



高田由紀子／作
ふすい／絵
ポプラ社(2017年)

夏休みの間、佐渡の祖母の家で過ごすことになった颯太。従姉が泳ぐ遠泳大会のビデオを見て、自分も大会に参加しようと決意するが、問題は25メートルしか泳げないことで…。



メキシコへわたしをさがして



パム・ムニョス・ライアン／作
神戸万知／訳
偕成社(2017年)

ひいおばあちゃんと私と弟のいごちの良い生活がとつ然引きさかれた。私たちをおいて出ていった母さんによって。私たちは助けを求めて、父さんを探しにトレーラーでメキシコに旅立つことにした。



ぼくとベルさん

友だちは発明王



フィリップ・ロイ／著
榎田理絵／訳
PHP研究所(2017年)

知りたいことがまだあるのに父さんは学校をあきらめろという。ぼくが字を読めないから。でも発明家のベルさんのはげましのおかげで、ぼくに物理の才能があることを父さんに認めてもらった。



もしも病院に犬がいたら こども病院ではたらく犬、ベイリー



岩貞るみこ／作
講談社(2017年)

つらいとき、もしもよりそってくれる犬がいたら。ストレスをかかえた人に愛情と安らぎをあたえるファシリテッドッグとハンドラーの活やくを追います。日本の病院では初めての試みです。

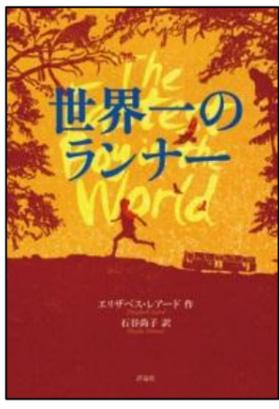


ぼくらは鉄道に乗って



三輪裕子／作
佐藤真紀子／画
小峰書店(2016年)

鉄道が大好きな裕太と時刻表を大事に持っていた転校生の理子。あることから2人で東京の調布から千葉県大原まで電車で行くことになった。隼人という友人に手伝ってもらい時刻表を調べ計画をたて、さあ出発！



世界一のランナー



エリザベス・レアード／著
石谷尚子／訳
評論社(2016年)

ソロモンは、エチオピアの11歳男子。8キロの道を走って通学している。夢は世界一のランナーになること。ある日、じいちゃんで行ったアディスアベバで、一生が変わるとてもない出来事が…。



わたしの苦手なあの子



朝比奈蓉子／作
酒井以／絵
ポプラ社(2017年)

足にやけどのあとが残るリサは、学校に居づらくなり、ミヒロの学校に転校して来るが、リサはみんなに心をひらくことが出来ない。ミヒロは苦手なリサを克服しようと決める。



夜間中学へようこそ



山本悦子／作
岩崎書店(2016年)

怪我をしたおばあちゃんの付き添いで夜間中学へ通うことになった優奈。戦争やいじめ、国籍の壁。様々な事情で中学時代をやり直している人たちの中で、優奈は学校に通うことの意味を考えます。



6この点 点字を発明した ルイ・ブライユのおはなし



ジェン・ブライアント／文 ポリス・クリコフ／絵
日当陽子／訳
岩崎書店(2017年)

現在も使われている点字は、ルイ・ブライユが15歳の時に、独力で発明したものです。ルイは小さいときに、失明し何としても本を読みたいと考えていました。



ざしきわらし



柳田国男／原作
京極夏彦／文
町田尚子／絵
汐文社(2016年)

東北に伝わる「ざしきわらし」について知っていますか？ざしきわらしがいなくなった家はどうなってしまうのでしょうか。冷静な語り口で語られ、思わず背筋がぞっとします。



クリスマスとよばれた男の子



マット・ヘイグ／文
クリス・モルド／絵
杉本詠美／訳
西村書店(2016年)

だれもサンタクロースのことを知らなかった時代があるなんて、信じられる？あの人がある男の子だったんだよ。これは「ぜったいにありえないこと」がいっぱいの、あの人のお話。